平成30年11月1日

平成３０年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立若松原中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには，学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があり，その上で，家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから，平成３０年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について，以下のとおり公表します。

また，調査結果は，学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので，調査結果の分析，指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1　目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から，全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し，教育施策の成果と課題を検証し，その改善を図るとともに，学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに，そのような取組を通じて，教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2　調査期日

平成30年4月17日（火）

3　調査対象

小学校　第６学年（国語Ａ・Ｂ，算数Ａ・Ｂ，理科，児童質問紙）

中学校　第３学年（国語Ａ・Ｂ，数学Ａ・Ｂ，理科，生徒質問紙）

4　本校の参加状況

①　国語Ａ　２０６　人　　国語Ｂ　２０６　人

②　数学Ａ　２０４　人　　数学Ｂ　２０５　人

③　理科　　２０４　人

5　留意事項

(1)　本調査は，対象となる学年が限られており，実施教科が国語，数学，理科の３教科のみであることや，必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから，本調査の結果については，児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。

(2)　本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

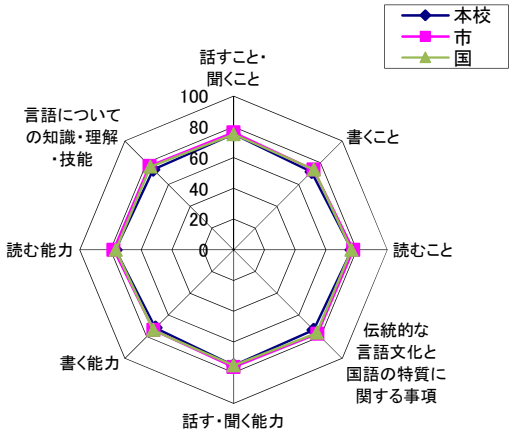
(3)　平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため，「本年度の状況」，「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立若松原中学校第３学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

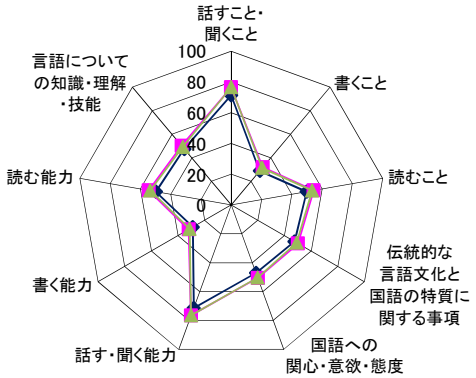
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと･聞くこと	75.2	76.4	75.2
	書くこと	71.8	73.7	73.9
	読むこと	76.9	78.0	76.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	73.8	77.2	76.5
観点	国語への関心･意欲･態度			
	話す･聞く能力	75.2	76.4	75.2
	書く能力	71.8	73.7	73.9
	読む能力	76.9	78.0	76.7
	言語についての知識･理解･技能	73.8	77.2	76.5



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと･聞くこと	71.4	76.5	76.6
	書くこと	28.9	31.9	31.3
	読むこと	49.8	54.5	53.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	47.6	50.2	49.2
観点	国語への関心･意欲･態度	47.1	50.6	50.3
	話す･聞く能力	71.4	76.5	76.6
	書く能力	28.9	31.9	31.3
	読む能力	49.8	54.5	53.5
	言語についての知識･理解･技能	47.6	50.2	49.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

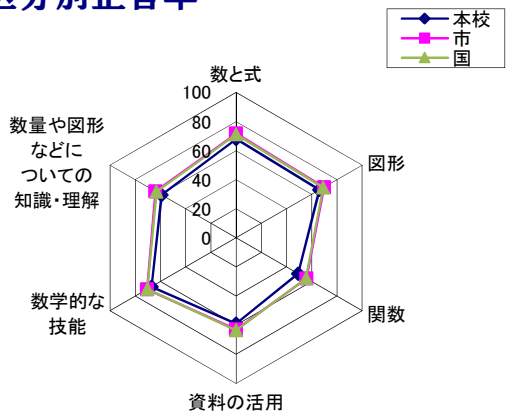
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○話し合いの話題を捉える能力は，県や国の平均を上回っていた。 ●話し合いの話題を捉える能力は高かったが，話題を捉えた後で的確に話す能力は県や国を下回っていた。	･相手の考えを捉えた後，自らの考えを的確に表現する能力を伸ばす必要がある。そのために，授業の中で話を聞くだけでなく，会話をする時間を多く設け，受信と発信をバランスよく行えるようにしていく。
書くこと	●すべての項目で市や国の平均を下回っている。特に，伝えたいことを相手に分かりやすく伝わるように書く能力が低い。	･まずは文を書く機会を増やし，作文そのものに慣れてさせいく必要がある。その際に，最初は型にはまった文を書かせたり，良い文を写したりさせるなど，分かりやすい文とはどのようなものか知識として身に付けさせる。
読むこと	○文脈の中で語句の意味を理解する能力や，文章の展開に即して情報を整理し，内容を捉える能力は，全体的に身に付いている。 ●登場人物の言動の意味などを考える能力が，市や国などの平均を下回っている。	･文学作品の登場人物の言動を的確に理解できるように指導していく。そのために，文章を読む際に登場人物の言動からその心情を捉えるような問いを多く取り入れていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○古典に関する問題の正答率は，国の平均を上回っていた。 ●漢字を正しく書く能力が，市や国の平均を大きく下回っていた。	･漢字テストを継続して行うとともに，新出漢字だけでなくこれまでに習ってきた漢字の復習を積極的に行う。

宇都宮市立若松原中学校第３学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

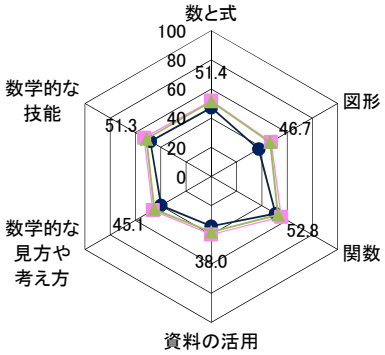
【数学A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	68.0	71.7	71.1
	図形	66.1	69.7	69.1
	関数	49.2	55.8	55.5
	資料の活用	58.9	62.9	63.5
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方			
	数学的な技能	67.1	70.6	70.4
	数量や図形などについての知識・理解	59.1	64.0	63.3



【数学B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	47.2	52.0	51.4
	図形	37.6	47.3	46.7
	関数	50.9	55.4	52.8
	資料の活用	34.1	39.8	38.0
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方	39.8	46.3	45.1
	数学的な技能	48.2	53.1	51.3
	数量や図形などについての知識・理解			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

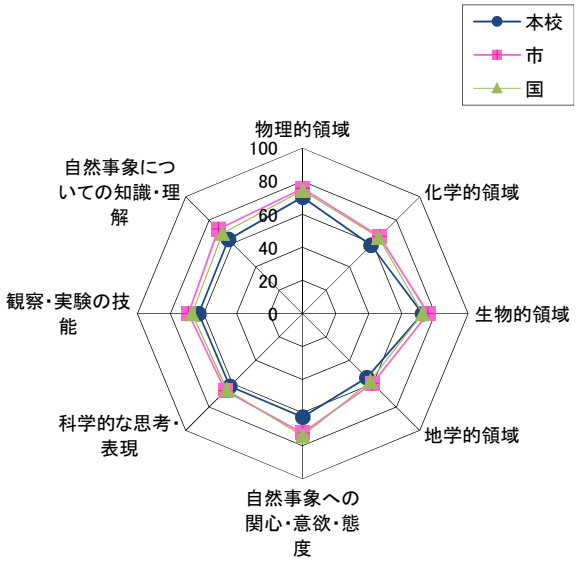
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	●平均正答率は、市の平均より4～5ポイント程低い。理解の遅い生徒には，机間指導による個別指導等で対応してきたが，理解の定着までには至っていない。	・基本的な計算の技能がなかなか定着しない生徒に対しての個別指導を充実させ，更に全体の底上げを図っていく。また，過去に学習した内容を忘れがちなので，授業の中で既習の内容を取り扱ったり，家庭学習の充実を図ったりしていく。
図形	●平均正答率は、市の平均より7ポイント程低い。B問題のやや複雑な問題や証明問題を苦手に感じている生徒が多くみられる。	・最初から図を与えずに問題文のみを与え，自分でイメージして正確な図をかき，必要な情報を図に書き込み，問題を解決する等の地道な作業を繰り返し指導していく。 ・証明問題が苦手な生徒には，まず穴埋め形式で問題を与えるなど，段階的に理解させていく。
関数	●平均正答率は、市の平均より5～6ポイント程低い。他の分野と比べると，関数分野を苦手に感じている生徒が多くみられる。特に，グラフについては，表や式をもとに，座標に一つ一つ点を取りながら指導してきたが，グラフの読み取りに関する問題を理解していない生徒がいる。	・関数の指導については，表，式，グラフの3つを有効に活用して問題解決に当たらせていく必要がある。特に，グラフを頭の中でしっかりイメージできていないと問題の理解は難しいので，グラフを書かせる時間を十分に確保して指導に当たる。
資料の活用	●平均正答率は、市の平均より5ポイント程低い。資料のどの部分に着目して問題を解決していったらよいかという問題解決の糸口が見つけられない生徒が多い。グループ活動等を通して，よりよい問題解決の方策を話し合う時間を多く確保してきたが，まだまだ理解が難しい。	・資料の活用は，他の分野で培った総合力が試される分野である。特に，簡潔で目的に合った表やグラフの作成能力が問われるので，関数の時間を中心に表，グラフを作成する時間を十分に確保するとともに，参考例を提示するなど，有効に資料を活用できる力を育てる。

宇都宮市立若松原中学校第３学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	物理的領域	70.4	75.7	74.4
	化学的領域	58.4	65.8	65.0
	生物的領域	72.5	75.9	72.5
	地学的領域	54.8	59.8	57.8
観点	自然事象への関心・意欲・態度	62.7	72.3	74.0
	科学的な思考・表現	62.3	66.0	64.9
	観察・実験の技能	62.9	69.1	67.0
	自然事象についての知識・理解	63.4	72.1	68.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物理的領域	○光の道筋や見え方に関する問題の正答率は，県平均を超えており，理解している。 ●電流や電力に関する問題の正答率は県平均と比較して低く，表から読み取ったり，計算したりする問題の正答率が特に低かった。	・表の読み取りや計算など，問題演習を行う。また，実験結果から自力で考察を行うことを習慣づける。
化学的領域	○実験の手法や，結果を読み取る問題の正答率は，県平均を超えており，現実に則した物の考え方ができる。 ●分子のモデルや，化学式を使用した問題への正答率が低く，化学式を覚えることや，実験による現象を正確に理解することが苦手である。	・化学式の小テストを繰り返し行う事や，実験の現象を分子のモデルで考えさせる活動を取り入れていく。
生物的領域	○生物的な知識を問われる問題への正答率は高く，知識がしっかりと定着している。 ●疑問を解決するため，実験手法を考える問題への正答率が低く，計画を立てることが苦手である。	・実験結果をまとめるだけではなく，課題解決的な活動を取り入れていく。
地学的領域	○地震に関する問題の正答率は県平均に近くなっており，一定の理解が図られている。 ●天気の分野の正答率が低く，特に小笠原気団の特徴を答える問題の正答率が県平均と比較して低い。	・日本周辺の気団の性質を整理して再度確認する。その際、なぜ気団の性質がそうなるのか（温度や湿り気）を、理由と共に考える活動を取り入れる。

宇都宮市立若松原中学校 第３学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫　　○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

○「先生は，あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」（肯定割合89.25%　全国との差+7.0ポイント）
○「将来の夢や目標を持っていますか」（肯定割合78.9%　全国との差+6.5ポイント）
○「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」（肯定割合98.5%　全国との差+3.0ポイント）
○「人の役に立つ人間になりたいですか」（肯定割合98.5%　全国との差+3.6ポイント）
●「学校の授業時間以外に，普段(月曜日から金曜日)，1日当たりどれぐらいの時間，勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）」(2時間以上33.4%　全国との差−3.0)
・学校生活は落ち着き，先生との人間関係も良好であるが，家庭学習が身に付いておらず，学習効果が発揮されない傾向にある。保護者会等で家庭学習を行うよう各家庭に依頼するとともに，自主学習ノートの提出を継続させる。

○「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」（肯定割合50.5%　全国との差+11.8ポイント）
○「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか」(肯定割合76.4%　全国との差+17.1ポイント)
・地域との関わりは高く，今後もボランティア活動などを中心に，地域で活動する生徒を育てていく。

○「数学の勉強は好きですか」(肯定割合55.9%　全国との差+2.0ポイント)
○「数学の勉強は大切だと思いますか」(肯定割合89.3%　全国との差+5.7ポイント)
○「数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか」(肯定割合51.5%　全国との差+12.8ポイント)
○「数学の授業で学習したことは，将来，社会に出たときに役に立つと思いますか」(肯定割合84.8%　全国との差+11.9ポイント)
○「数学の授業で公式やきまりを習うとき，その根拠を理解するようにしていますか」(肯定割合77.9%　全国との差+7.5ポイント)
○「数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートを書いていますか」(肯定割合84.8%　全国との差+4.2ポイント)
○「理科の授業の内容はよくわかりますか」(肯定割合76.4%　全国との差+6.4ポイント)
○「自然の中で遊んだことや自然観察したことがありますか」(肯定割合84.3%　全国との差+6.7ポイント)
○「理科の授業で，観察や実験の結果をもとに考察していますか」（肯定割合80.9%　全国との差+8.6ポイント）
・教師の授業力が高く，生徒は数学や理科の授業の必要性を感じ，熱心に取り組んでいる。今後も見せ合い授業などを行い，同僚性を高め，学習環境を整えていく。

宇都宮市立若松原中学校（第３学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で，重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎学力の定着	帰りの会で，今日の漢字として，1日1字の漢字書き取りを行う。 自主学習ノートの提出を毎日行い，副担任がチェックを入れる。未提出者は昼休みに行う。 1週間に1回5教科の小テストを行う。	「学校の授業時間以外に，普段(月曜日から金曜日)，1日当たりどれぐらいの時間，勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）」(2時間以上33.4%　全国との差−3.0)

★学校全体で，今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
教科に関する調査で、全国平均を下回る問題が見られた。	放課後に、学習相談を実施し、知識、技能の定着を図る学習環境を設定する。	放課後に、希望者を別室に集め、基礎基本にかかわる問題を提示し、その問題を先生が解説を行い、学力の向上、定着を図る。